| | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 編集委員長 | 二宮　省悟 | | | | | | | | | | | | |
| 編集委員 | 大塚　　圭 | 谷口　千明 | 原　　賢治 | 平山　朋子 | 山本　洋司 | | | | | | | | |
| 査読者 | 明日　　徹 | 池田　耕二 | 石井　祐介 | 一場　友実 | 伊能　良紀 | 今井　祐子 | 岩井　信彦 | | | | | | |
| | 上野　　忍 | 鷲　　春夫 | 薄　　直宏 | 内山　　靖 | 宇都宮雅博 | 大垣　昌之 | 大沼　賢洋 | | | | | | |
| | 奥田　　裕 | 小貫　睦巳 | 小野田　公 | 加藤研太郎 | 加藤　芳司 | 上岡裕美子 | 河江　敏広 | | | | | | |
| | 神田　勝利 | 北村　拓也 | 木下　謙介 | 木村　　朗 | 熊田　　仁 | 合田　秀人 | 甲田　宗嗣 | | | | | | |
| | 神戸　晃男 | 小島　　肇 | 小林　　賢 | 小林　大介 | 小峯　武陛 | 坂本　　雄 | 笹野　弘美 | | | | | | |
| | 笹本雄一朗 | 佐野　徳雄 | 篠崎　真枝 | 下井　俊典 | 白石　和也 | 菅沼　一男 | 鈴木由佳理 | | | | | | |
| | 善明　雄太 | 高島　　恵 | 高野　　稔 | 竜田　庸平 | 田代　尚範 | 田邉　芳恵 | 田畑　　稔 | | | | | | |
| | 田村　正樹 | 辻　いづみ | 豊田　　輝 | 鳥居　昭久 | 長澤　康弘 | 中根　征也 | 中原　雅美 | | | | | | |
| | 中村　浩一 | 西井　琢馬 | 西郡　　亨 | 林　　隆司 | 林　　弘康 | 日髙　正巳 | 平野　正広 | | | | | | |
| | 福原　隆志 | 藤橋雄一郎 | 藤本　昌央 | 堀　　寛史 | 堀本　佳誉 | 町田　　和 | 三上　　亮 | | | | | | |
| | 水守　啓介 | 村山　明彦 | 八並　光信 | 山岡　郁子 | 山形　哲行 | 山下　淳一 | 山下　喬之 | | | | | | |
| | 山田　洋一 | 山野　　薫 | 山本　　悟 | 横山　茂樹 | 吉崎　邦夫 | 吉澤　隆志 | 芳野　　純 | | | | | | |
| | 吉本　真純 | 渡邊　晶規 | 渡邊　昌宏 | | | | | | | | | | （五十音順） |


## 編　集　後　記

春分の候，皆様におかれましては新型コロナウイルス感染拡大防止の策を講じている時期ではないかと思います。世の中の大変な状況の中，今回，創刊号を発刊できましたことは大変喜ばしく，本誌編集委員会としても嬉しい限りです。これもひとえに皆様のご協力のたまものと深謝申し上げます。

さて，本号では，創刊号として本学会日高理事長の「一般社団法人日本理学療法教育学会の使命」をはじめ，3本の原著論文と1つの短報を投稿していただきました。改めて，執筆者の皆様に厚くお礼申し上げます。本誌の投稿執筆規程の中では，「本誌は一般社団法人日本理学療法教育学会の学会誌であり，理学療法教育及び関連領域の研究を公表し，理学療法教育を発展させることを主な目的とする。」としています。今後も皆様の投稿論文をお待ちしております。

理学療法分野での教育とは，その範囲である卒前・卒後の中で「人」を育てる上で様々な役割を果たすと思います。卒前は学生教育に始まり，学内教育・学外教育について，特に今般のコロナ禍の中でどのように学内の授業や臨床実習を行うべきかについて，いろいろと考えさせられた年でもあったかと思います。コロナ禍の中ではリモートによる授業をいかにして行うか，対面授業をする場合の感染対策を行うにはどのように対応するべきかなど，通常では気にもしていなかったことまでが注意深く見つめられ，そして考えられるようになりました。臨床実習に関してはコロナに対する「学校側の対策」と「臨床実習施設側の対策」が求められました。学校側の対策としては，学生を臨床実習に送り出すためのOSCEを行う中で，水準Ⅰの中にある項目「スタンダード・プリコーション」を第1番目にとりいれた養成校も多かったのではないでしょうか？また，「臨床実習施設側の対策」としてはコロナ禍によりさらに逼迫した状況の中で，実習生を受け入れるかどうかについて，病院全体で議論された施設がほとんどだったと伺っております。更に指定規則改正による移行期としての大変さも加わり，一言では言い表せない状況であったといえるでしょう。そしてその状況は卒後教育である「新人教育」・「職員教育」にも当てはめることができます。したがって，今般の状況は二重三重にも高い壁を乗り越えるにはどのような教育を行うべきか考えさせられた厳しい状況と言わざるを得ません。アメリカ合衆国イリノイ州生まれの飛行家であり作家のリチャード・バックは，「すべての困難は，あなたへの贈り物を両手に抱えている」といっています。この大変な状況こそ，さらなる理学療法教育の「進化・深化・真価」を遂げていけるのではないかと思います。常日頃の教育現場での何気なく見つけた疑問を拾い上げ，情報共有し，分析，考察することで，最大の効果を発揮することがあります。本誌がその発表の場になり，読者の皆様へ日頃の問題解決のヒントになればとつくづく思う次第です。ここに執筆いただく皆様の投稿された論文一つ一つが「教育」に繋がっており，その教育は理学療法に関することであり，まさに機関誌名の「理学療法教育」を詰め込んだ基礎となるものができたらと思います。今後も，魅力ある様々な英知が終結した機関誌に仕上がっていくことができればと，編集委員も全力を挙げて勤めて参ります。

編集作業の過程、今回投稿していただきました皆さまの原稿を読ませていただき，私自身大変勉強させていただきました。今回の創刊にあたり，様々な方の考え方に触れたことは，今後の理学療法教育に関係し，本誌を読んでくださる全ての人々へ，お役に立つことを願っています。今後ともご協力ご支援の程，よろしくお願い申し上げます。　　（編集委員長　二宮省悟）


# 理学療法教育

第1巻（創刊号）

2022年3月31日　発行

編集発行　日本理学療法教育学会

〒106-0032　東京都港区六本木7丁目11番10号
一般社団法人 日本理学療法教育学会
公益社団法人 日本理学療法士協会内
「理学療法教育」編集事務局
E-mail：journal@edu.jspt.or.jp

印刷・製本　株式会社 正 文 社
千葉県千葉市中央区都町1丁目10番6号
TEL：043-233-2235　FAX：043-231-5562